

# 寄り添う

## 外国由来の子どもたちと共に

外国から来た子どもたちにとって、日本での生活は初めてのことが多かりです。

親も生活に慣れるのが大変でしょうが、子どもも大変。周囲にはわからない言葉が飛び交い、勝手が違う学校生活。私たちにとっては当たり前でも、日本独特の学校文化が意外とあるものです。例えば登校。日本は基本的に子どもだけで登校します。授業は椅子に座って一斉授業。そして休み時間は飲食ができません。給食は自分たちで配膳し、掃除も自分たちでします。家に帰ると……

宿題があります！これらは日本独特の「学校文化」といえます。

タイから来たSちゃん。「タイの

## 異文化を受け入れる(上)

は掃除も学習の一つと考えます。宿題をやつてこない丁君。お母さんと話してみたら「私の国では勉強は学校でするもの、宿題はありません」。なるほど、それでは子どもに「今日宿題は？」と聞くこともないでしょう。

学校、休み時間、お菓子いい。みんな食べる」。初めは緊張してなかなか話していませんでしたが、日本語を覚えるにつれてそんなことを教えてくれました。掃除は放課後に業者がするといふ国から来た親子は、初めはだいたい抵抗があったようです。日本

これらすべてに「言葉がわからない」ということが加わります。来日した子どもたちのほぼ全員がカルチャーギャップを感じ、それを乗り越える努力をしています。どちらの文化がいい悪いという話ではありません。違いにまず気づくこと。そして

それを「こちらのやり方にしなさい」ではなく、相手の文化も尊重しながらこちらのやり方を伝え理解してもらおうこと。知ってもらい、知ろうとすることをあえらためて考えてみませんか。自分にとつての「当たり前」を見直すことはなかなか難しいですが、その先に新たな世界が見えてくるかもしれません。

「きみたちふたりは、

おたがいを知らなすぎる！——中略——無知は誤解を生み、誤解は憎悪を生み、憎悪は暴力を生む」。岩城けい著『Matt』より。

(松本市子ども日本語教育センター・コーディネーター・西尾淳)